地域円卓会議　in 宮古島

県内の島嶼地域と本島北部地域５カ所における若者の定住と働き方を考える

実施報告書

日　　時：　2016 年 3 月 11 日（金）18:00-20:30

場　　所：　宮古島市中央公民館

主　　催：　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

報告書作成

公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議

■日　　時：2016 年 3 月 11 日（金）18:00-20:30
■場　　所：宮古島市中央公民館
■着席者数：7 名（論点提供者、司会、ファシリテーター含む）
■来場者数：25 名（行政・大学・企業・NPO・市民）

■主　　催：国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
NPO 法人まちなかわくわく研究所
■お問合せ：国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティ
キャンパス事業本部

論点提供　**垣花 和彦　氏**（宮古島市企画政策部次長兼企画調整課長）

県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-宮古島編

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5 カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

センターメンバー

垣花 和彦
宮古島市企画政策部
次長兼企画調整課長

安里 智行
宮古島商工会議所
青年部会長

下地 芳郎
琉球大学 観光産業科
学部教授

平良 幹雄
宮古毎日新聞社
編集部長

下地 弥那美
琉球大学
観光産業科学部３年

➢ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 宮古島市の人口 51,000 人（平成 27 年度速報値）。5 年間で 800 人減少。人口ピークは昭和 30 年 72,000 人。
- 沖縄県の 11 市のうち人口減少は宮古島市のみ。
- 島の中でも人口増減があり、久松地区、鏡原地区は増えつつある。
- 高齢化率 23.2%（平成 22 年）。
- 宮古島市の事業所 3,000。従業員約 20,000 人（卸し・小売り 3,500 人、飲食宿泊 2,900 人、医療福祉 3,700 人等）。
- 観光業は若い方の雇用になっている。
- 宮古島は他地域に比べ介護施設事業所が多い。若者の雇用の場になっているが、現場は厳しく定着率低い。
- 有効求人倍率はここ 2 ヶ月は 1 倍を超しているが、雇用の現場でのミスマッチが課題。
- 看護、介護、保育、観光。人手が足りない。
- 商工会会員約 2,000 社。
- 高校生対象のアンケート調査で「どの地域で就職したいか？」の問いに、県外 48%、県内 25%、宮古島市内 25%だった。

評価の提供

- 入域観光客数の目標 50 万人は、平成 27 年度中に突破。さらに、66 万人を新たな目標にしている。
- 将来に向けてリゾート開発計画が盛んになっている。
- 移住者の方は以前はダイビング関係が多かったが、最近は雑貨、居酒屋等飲食店増えている。
- 島を出て活躍したい思いは宮古島のスピリット。外で頑張ってくる気概が昔からある。

事例の提供

- 仲間内で島にもどってきた若者の受け入れ、斡旋を行っている。

- 移住者の方にどのように地域コミュニティにとけこんでもらうか。
- リゾート開発に地元の人をどれだけ関われるか慎重にしていく必要がある。
- ICT を活かして教育と医療の問題をどう変えていくのか。

視点の提供

- 親としては、子どもには一度島を外へ出てほしい。成長後、何かを島にもち帰って伝える側になってほしい。
- 同級生には、宮古島にもどらない人の方が多い。外にでてみたいと思う気持ちが強い。
- 沖縄にとって観光産業の重要性は学生にも認識されているが、周りの理解や意識が公務員や金融機関、流通のほうに向いている。
- 若者がホテル等で働きステップアップしていくイメージを持てていない。マイナスイメージをもたれている。
- 経営学や観光学等、学生が学んだ専門が観光業の中でどのような活用ができるのか見せていく。
- 経営者から熱意を伝え、キャリアパスを学生に見せていかないと学生に伝わらないのでは。
- 宮古島の観光客、約 50 万人／年。4,000 人／日。宮古島の 5 万人の労働人口で比較したとき、約 1 割にあたる消費人口がいる。そこに対してどのようなサービスが提供できるのか？
- 大学のサテライトキャンパスを活用し、現場の社会人と学生が大学の教育について学んでいく機会も必要。
- 高度な農業を担える人材をどう育成するのか。人材の育成も重要。
- 働きながら学びの機会に触れていく。
- 島からでるのはよいが、目標をもって出たほうがよい。
- 地下ダムが整備されたことで、高付加価値な農業展開ができるようになっている。それを活かして、食や体験技術を組み合わせた 6 次産業の展開が大事。
- 観光を考える場合地元の人だけではむずかしい。島外、県外、海外の視点が必要。
- 宮古島は移住者多いが、すぐ帰る人もいる。
- 雇われる方よりも起業する方が多いのでは。
- 自然、海、人の魅力がある。この島で生活したい、子ども育てたいとの思いで来ているのでは。
- 観光でまだ希望が持てるとあって、移住で人を呼び込むことに本腰入れていない。
- 移住定住について今後取り組みがはじまる。
- 空家の所有者の意向を確認して台帳をつくる予定。

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

- **<u>島内でのキャリアアップ</u>**　観光産業のキャリアパスを学生・若者が描けるようにする。
- **<u>島外の経験活かす</u>**　島外での経験ノウハウを島での人材育成で活かせるしくみをつくる。
- **<u>様々な人材の育成</u>**　観光産業、農業や商業、IT や教育などで活躍できる人材を育成。
- **<u>環境関連産業の発展</u>**　エコ・アイランドを構築し、国内外からの研究者・企業の誘致。

■参加者によるサブセッション

「宮古島に、若者にどう関わってもらうか？」（原文のまま）

- 高付加価値/スキル
  ①島内で高スキルを得られるサテライト/大学の分校をつくる→職でなく「スキル」で島、島外、県外、どこでも働ける。大学生、県外生とふれあう機会を加える。
  ②そのために、中高の頃からプロを呼んで講義して意識 up。
  ③英語で最先端の技術を農業/観光に生かす（「ジュラシック・パーク」のように「英語の島」、ハイテクの島にする。
- U ターンが戻ってこないのは？
  →子供達が実は愛着を持てない。
  →どういう島になりたい、というビジョンがない。
  ＊「出ろ」というだけでなく、「持ち帰れ」という思いで送り出すべき。
- 教育。
- 島外の人が多く来てくれるように。
- Ｉターン。
- 女性の活躍の場が少ない。
- 産業が育ってほしい。
- 一度外に出た若者が帰ってくるためのきっかけ、流れを明確に発信する！！
- 夢が持てる状況を作る。
  観光・農業・畜産での若い高度人材の育成。
  ★地元の高度人材の育成、場づくり。
- 宮古島ならではの観光地としての利点（あるいは他の島々にある危険が無いという点）が必要。
- 沖縄全体の中で､宮古島特有のものをPRする。
  例：特産物、自然
- 企画のネタづくり（宮古発信)。
- ベンチャー増やす（農業・観光からも)。
- 宮古からでも、すぐ東京等かけつけて仕事できるアクセスをもつ。
- 宮古島の高校生にとって魅力のある職業（島外への研究制度)。
- 郷友会によるネットワークの利用。

若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議
参加者アンケート集計

◆概要

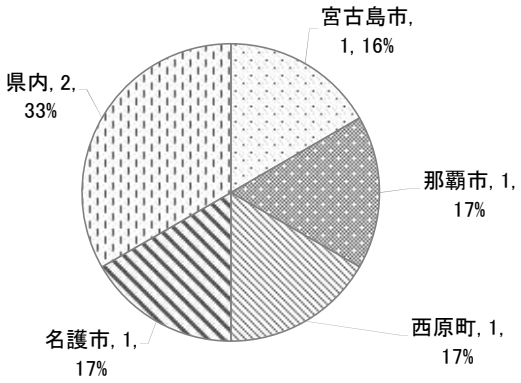
・日　時：2016 年 3 月 11 日(木)18 時～20 時半

・場　所：宮古島市中央公民館

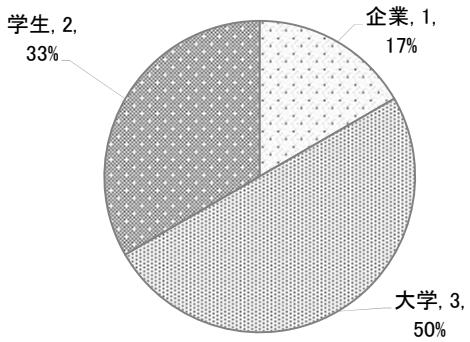
・着席者：7 名(司会、記録含む)

・参加者：25 名（アンケート回収 6 名、回収率 24%）

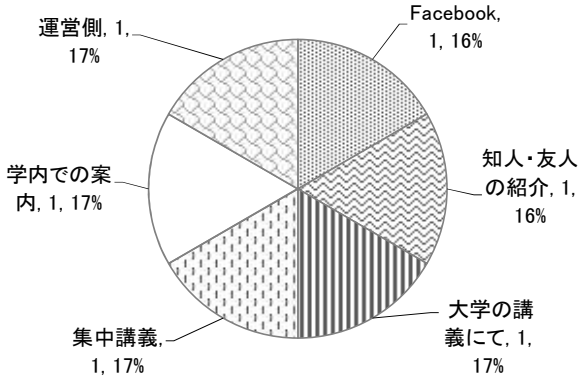
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.67（5 点中）

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足してない	1.不満足
4 名	2 名	0 名	0 名	0 名

５．満足度の理由

・なぜ宮古島市の人口が減っているのか原因が見えた気がした。垣花次長や安里さん、下地教授の話も興味深かった。特に下地教授の話は観光協会の人間として考えさせられる部分がありました。

・様々な人達からの意見を聞くことができたので、様々な人達のそれぞれの意識を集めることによって具体的なイメージを知ることができた。

・島の未来を考える「本気度」がよく理解できた。

・面白い内容の話が聞けました。もっと人数が集まれば良かったかも。

６．印象に残ったこと

・島内企業による人材育成。

・大学でのフィールドワークやサテライトキャンパスでの情報発信を活発化させる。

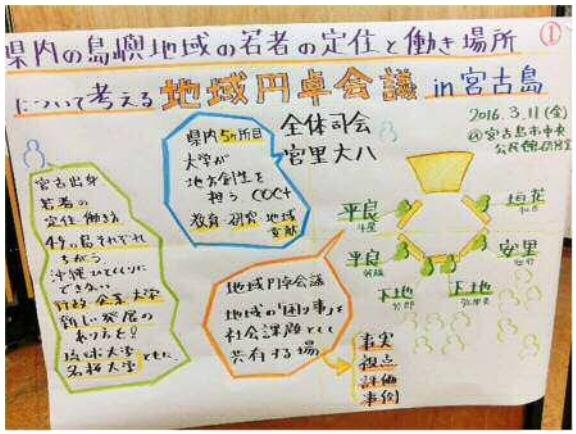
・大学生（県内/県外/海外）の人々と地元の高校生がもっと交流できるようにした方が良い。

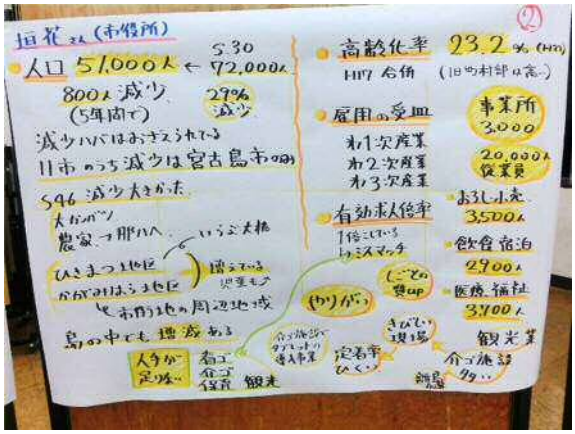
・宮古の若者の外への志向が強い！！

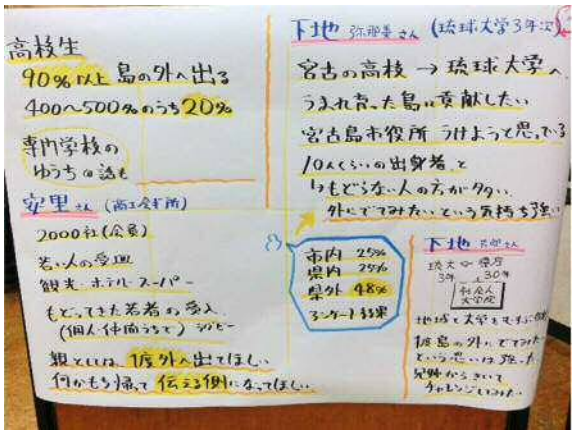
・観光業や農業の高度人材の投入→観光業のキャンパス確立。

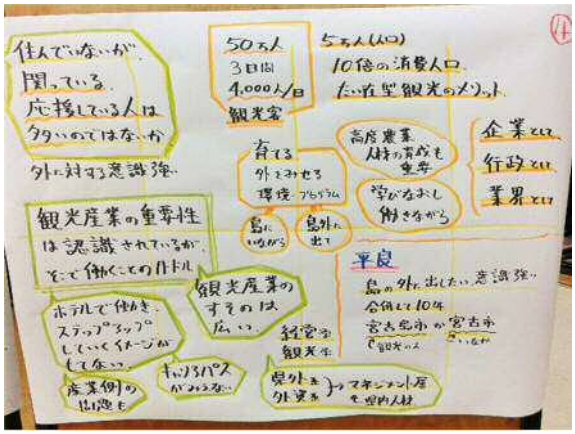
等

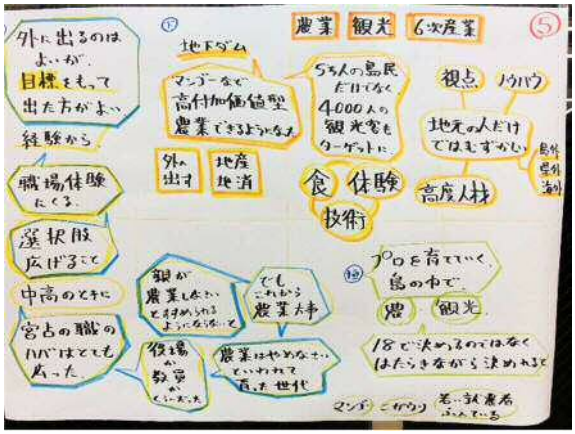
（写真）会場の様子


県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所
について考える地域円卓会議 in 宮古島
2016. 3. 11 (金)
全体司会
宮里大八
県内5ヵ所目
大学が地方創生を担う COC+
教育 研究 地域貢献
宮古出身若者の定住 働き方
4ヶ島それぞれちがう
沖縄ひとくくりにできない
行政 企業 大学
新しい発展の方向を!
琉球大学 名桜大学 ともに
地域円卓会議
地域の困り事を社会課題として共有する場
事実
視点
評価
事例
平良
垣花
安里
下地

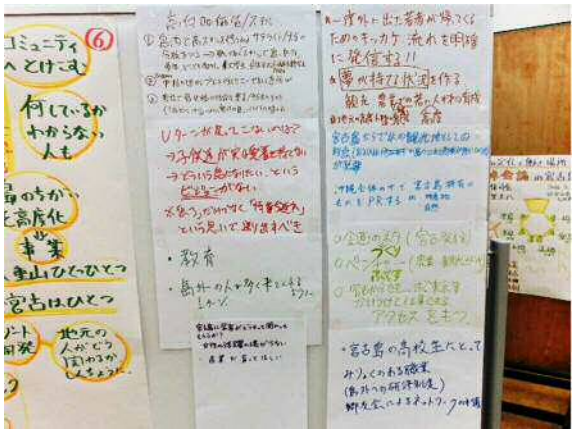

垣花さん(市役所)
人口 51,000人 ← 5.30 72,000人
800人減少 (5年間で) 27%減少
減少ハバはおさえられている
11市のうち減少は宮古島市の次
S46 減少大きかった
大ガツ
農家→那ハ
ひきまつ地区
かがみはら地区
と市街地の周辺地域
島の中でも地域ある
人手が足りない
看護 介護 保育 観光
高齢化率 23.2% (H27)
H17 名護 (旧町村部の高い)
雇用の受皿
第1次産業
第2次産業
第3次産業
事業所 3,000
20,000人 従業員
有効求人倍率
1倍こえている
トンネスマッチ
よろしい点 3,500人
飲食 宿泊 2,900人
医療 福祉 3,700人
観光業
しごとの質up
やりがい
きびしい現場
定着率ひくい
介護施設 多い


高校生
90%以上 島の外へ出る
400〜500名のうち20%
専門学校のゆうちの話も
安里さん(商工会議所)
2000社(会員)
若い人の受皿
観光 ホテル スーパー
もどってきた若者の受入
(個人仲間うちで) シビア
親としては、1度外へ出てほしい
何かもち帰って伝える側になってほしい
下地 弥那美さん (琉球大学3年次)
宮古の高校→琉球大学へ
うまれ育った島に貢献したい
宮古島市役所 うけようと思っている
10人くらいの出身者と
ひもどうな人の方が多い
外にでてみたいという気持ち強い
市内 25%
県内 25%
県外 48%
アンケート結果
下地 弥那美さん
琉大の 県庁 3年 30年
社会人大学院
地域と大学をむすぶ
島の外にでてみたいという思いは強い
兄弟からきいて チャレンジしたい


住んでいないが、関っている、応援している人は多いのではないか
外に対する意識強い
観光産業の重要性は認識されているが、そして働くことの仕方
ホテルで働き、ステップアップしていくイメージがもてない
産業側の出遅れ
観光産業のすそのは広い
経営者 観光者
キャリアパスがつくれない
県外者 外資系
マネジメント層を空内人材
50万人 3日間 4,000人/日 観光客
5万人(人口)
10倍の消費人口
たい在型観光のメリット
育てる 外でみせる 環境 プラグラム
島にいながら
島外へ出て
高度農業人材の育成も重要
空がなおし 働きながら
企業として
行政として
業界として
平良
島の外へ出したい 意識強い
合併して10年
宮古島市が宮古市
観光の
宮古市 宮古市 宮古市
マネジメント層を空内人材


外に出るのはよいが、目標をもって出た方がよい
経験から
職場体験にくる
選択肢広げること
中高のときに
宮古の職のハバはとても広った
地下ダム
マンゴーなど高付加価値型農業できるようになる
外へ出す
地産地消
農業 観光 6次産業
5万人の島民だけでなく4000人の観光客もターゲットに
視点 ノウハウ
地元の人だけではむずかしい
島外 県外 海外
食 体験 技術
高度人材
プロを育てていく、島の中で
農 観光
18で決めるのではなくはたらきながら決めれると
でしこれから農業大事
親が農業したくないとすすめられるようになって
役場か教育かくらべた
農業はやめなさいといわれて育った世代
マンゴ こがつ 若・就農者ふえている

宮古島に若者の関わりをつくる定住と働き場所について考える
物住者 多い
戻ってくる人も
人の出入り多い
自然 海 人の魅力
子ども育てる
雇われよりも起業
空き店ポもあるので
外で活躍する
人材を育てる
行政として
リゾートの計画
50万人目標
66万人目標
クルーズ船も
ICT活用
事業
八重山ひとつ
宮古はひとつ
島のちがいを高度化
コミュニティへとけこむ
何しているかわからない人も
小学校 中学校
教育と医療
可能性広げる
島に生かす
観光分野の人材育成
ダイビング 雑貨屋 居酒屋
物住
農業の人も
よびこむことに生けめいでなかった
物住定住のターゲット調査
空家の調査マッチング
占民家
所有者の意向
ブログ
最報発信
リゾート開発
地元の人がどう関わるかしんちょう


コミュニティへとけこむ
何しているかわからない人も
島のちがい
高度化
事業
八重山ひとつ
宮古はひとつ
地元の人がどう関わるかしんちょう
Uターンが見えてこないなら
→子育て支援が足りない
→どういう島にしたいか、というビジョンがない
×もう、だめかもって「特効薬」という見方で選択すべき
・教育
・島外の人や帰ってきてくれる人
・宮古島の高校生たちとの外へでられる機会
(島外への研修制度)
卒業生によるネットワーク

入場無料
どなたでも
参加できます

テーマ　**県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える**
-宮古島編

論点提供者　垣花 和彦　氏（宮古島市企画政策部次長兼企画調整課長）

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。
企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。
今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所（大宜味村、国頭村(2/24)、久米島町(3/3)、石垣市(3/10)、宮古島市(3/11)）における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

2016 年 3 月 11 日(金) 18:00-20:30 (受付開始：17:30～)

会 場　宮古島市中央公民館
沖縄県宮古島市平良字下里 315

対 象　どなたでも参加できます。

参加申込方法　希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。
e-mail：cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
TEL：098-895-8019、FAX：098-895-8185

■主　　催　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ　国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部（担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019）

県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における若者の定住と働き方を考える　地域円卓会議　開催のご案内

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域５カ所における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

円卓会議とは　「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ　県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える -宮古島編

＜論点提供者＞垣花 和彦　氏（宮古島市企画政策部次長兼企画調整課長）

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内５カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

■タイムテーブル（予定）

18:00　オープニング　～あいさつ～
18:05　地域円卓会議について
18:10　【論点提供】「県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-宮古島編」
18:30　セッションⅠ（兼出席者紹介）
19:20　サブセッション（会場全体で意見交換）　兼 休憩
19:50　セッションⅡ
　　まとめ
20:30　終了予定

■着席者

・垣花 和彦氏（宮古島市企画政策部次長兼企画調整課長）
・安里 智行氏（宮古島商工会議所　青年部会長）
・下地 芳郎氏（琉球大学 観光産業科学部教授）
・平良 幹雄氏（宮古毎日新聞社　編集部長）
・下地 弥那美氏（琉球大学　観光産業科学部３年）

司会進行：平良 斗星氏（公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長）
記録者：宮道 喜一氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長）

●開催日時　2016年3月11日（金）18:00-20:30　（受付開始：17:30～）
●会　　場　宮古島市中央公民館（沖縄県宮古島市平良字下里 315）
●対　　象　どなたでも参加できます。
●参 加 費　無料
●定　　員　50 名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。
ご希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail：cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX：098-895-8185

■主　　催　国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
■協　　力　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ　国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部
（担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019）

参加申込書

所属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　役職＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※ファックスでお申し込みの方はこちらの面をお送りください。